

1. 会議の概要

1. 会議の概要

1.1 はじめに

平成 24 年 11 月 28 日から 30 日にかけて「第 8 回日伊土砂災害防止技術会議」が東京を中心に開催された。本会議は、平成 10 年 5 月にイタリア・サルノ市周辺で多数発生した泥流による土砂災害に対する日本とイタリアの共同調査を契機として、平成 10 年 11 月に開催された第 6 回日伊科学技術協力合同委員会において設置することが合意されたものである。第 1 回会議は平成 11 年 11 月に東京および鹿児島において開催された。その後、日本・イタリア両国において交互に開催されてきており、8 回目である今回は日本における開催となった。

1.2 日程および参加者

1.2.1 日程

11 月 30 日の東京における会議に先立ち、28 日には浅間山の火山砂防事業の視察、29 日には東日本大震災被災地の視察が行われた。日程を表-1 に示す。

表-1 日程

11月27日	国土交通省技監、砂防部長表敬訪問
28日	浅間山直轄火山砂防事業視察 (群馬県嬭恋村、長野県軽井沢町他)
29日	東日本大震災被災地視察 (宮城県石巻市、女川町他)
30日	会議 (東京)

1.2.2 参加者

本会議の参加者は表-2 の通りである。

表-2 参加者

イタリア ヴェネト州	
マウリツィオ・コンテ	環境大臣
アンドレア・バッシ	運輸都市建設委員会委員長
ニコラ・イニャツィオ・フィンコ	環境委員会委員長
ゲリー・ボラット	環境委員会事務局長
マリアーノ・カッラーロ	環境部長
イタリア国立研究評議会 水文地質防災研究所	
アレッサンドロ・パースト	パドヴァ支部研究所長
ジャンルーカ・マルカート	パドヴァ支部所員
シルヴィア・ペルカッチ	ペルージャ支部所員
国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部	
南 哲行	砂防部長
大野 宏之	砂防計画課長
渡 正昭	保全課長
山口 真司	砂防計画課地震火山砂防室長
国土技術政策総合研究所 危機管理技術研究センター	
後藤 宏二	危機管理技術研究センター長
岡本 敦	砂防研究室長
水野 正樹	砂防研究室主任研究官
内田 太郎	砂防研究室主任研究官
独立行政法人土木研究所 土砂管理研究グループ	
小山内 信智	グループ長
石塚 忠範	火山・土石流チーム上席研究員
武士 俊也	地すべりチーム上席研究員
千田 容嗣	地すべりチーム総括主任研究員
野呂 智之	雪崩・地すべり研究センター所長
砂防関係機関	
大井 英臣	(一社) 国際砂防協会会長
近藤 浩一	(一財) 砂防・地すべり技術センター理事長
在日イタリア大使館	
アルベルト・メンゴーニ	科学技術部科学技術担当参事官
石山 誠一郎	科学技術部科学技術担当参事官補佐

1.3 現地視察

1.3.1 浅間山直轄火山砂防事業視察

11月28日、イタリア側参加者は浅間火山博物館や現地を視察し、関東地方整備局利根川水系砂防事務所より過去の噴火における被害や浅間山直轄火山砂防事業の概要等について説明を受け、両国共通の課題である火山噴火に起因する土砂災害について意見交換を行った（写真-1）。



写真-1 浅間山現地視察

1.3.2 東日本大震災被災地視察

翌日は宮城県石巻市や女川町を視察し、宮城県および東北地方整備局北上川下流河川事務所より被災の状況や復興への取り組みなどについて説明を受けた（写真-2）。イタリア側からは津波被害の状況や復興対策等について活発な質問が出され、震災に対する関心の高さがうかがえた。



写真-2 女川町における現地視察

1.4 会議

1.4.1 議事次第

会議は11月30日、東京都港区の三田共用会議所において開催された。議事次第は表-3の通りである。

表-3 議事次第

10:00 開会挨拶
<ul style="list-style-type: none">・南砂防部長・コンテ ヴェネト州環境大臣・イタリア大使館メンゴニ参事官
10:15 基調講演
<ul style="list-style-type: none">・日本の砂防事業について 南砂防部長・ヴェネト州の水害リスク管理 コンテ大臣
12:00 昼食・休憩
13:30 セッション1：大規模土砂災害について
<ul style="list-style-type: none">・Webを活用した深層崩壊自動モニタリング マルカート水文地質防災研究所パドヴァ支部研究員・日本における最近の大規模土砂災害 小山内土木研究所土砂管理研究グループ長
14:40 セッション2：土砂災害へのソフト対策について
<ul style="list-style-type: none">・降雨による崩壊予測・警戒システム ペルカッチ水文地質防災研究所ペルージャ支部研究員・日本における豪雨に起因する土砂災害 岡本国総研危機管理技術研究センター砂防研究室長
15:50 日伊砂防技術協力15年間の振り返りと、今後の協力の方向性について
<ul style="list-style-type: none">・土砂災害に関する日伊科学技術協力の15年間 パスト水文地質防災研究所パドヴァ支部研究所長・近年の日伊土砂災害技術協力 後藤国総研危機管理技術研究センター長
16:30 議論・意見交換
17:00 閉会挨拶
<ul style="list-style-type: none">・大野砂防計画課長

1.4.2 基調講演

会議の前半では、国土交通省水管理・国土保全局の南砂防部長およびイタリア・ヴェネト州のコンテ環境大臣より、両国における最近の土砂災害、洪水被害および対策事業について基調講演が行われた。

南砂防部長からは日本における昨今の砂防事業の概要が、コンテ大臣からはヴェネト州における最近の洪水被害や、都市域における貯水池、緑地帯等の整備を通じた排水機能の強化に向けた施策が紹介された。あわせて、カッラーロ環境部長よりヴェネト州で発生した大規模崩壊に対する対策工事や、土砂災害発生時の行動マニュアルを住民へ配布する取り組みについて説明があった。

1.4.3 セッション1：大規模土砂災害について

午後からは大きく2つのテーマについて両国より話題提供が行われた。1つめは大規模土砂災害に関する話題で、イタリアの水文地質防災研究所パドヴァ支部のマルカート氏からは、東部イタリアアルプスで発生した深層崩壊に対するWEBベースの遠隔モニタリングシステムの運用や、ハザードマップ作成に向けた土砂移動現象の再現計算について発表があった。

また小山内土木研究所土砂管理研究グループ長からは日本において最近発生した大規模土砂災害に関する報告があった。

1.4.4 セッション2：土砂災害へのソフト対策について

2つめのテーマは土砂災害に対するソフト対策で、水文地質防災研究所ペルージャ支部のペルカッチ氏からは、過去の災害事例より、降雨継続時間と積算雨量の関係から土砂災害発生時期を予測するシステムを構築し運用中であること、今後土砂災害危険箇所情報と組み合わせることにより精度の向上に取り組むことなどが紹介された。

また国土技術政策総合研究所危機管理技術研究センター砂防研究室の岡本室長からは、日本における豪雨起因の土砂災害の発生状況、ならびに土砂災害警戒情報の運用状況等についての発表があった。

1.4.5 日伊砂防技術協力15年間の振り返りと、今後の協力の方向性について

会議の総括として、国総研の後藤危機管理技術研究センター長および水文地質防災研究所パドヴァ支部のパスート研究所長より、日伊両国間での約15年間におよぶ技術協力の振り返りと、今後の共同研究の方向性についての提案が行われた。

1.4.6 議論・意見交換

最後に会議全体を通しての討議が行われ、イタリア側からは日本の土砂災害警戒情報の運用実績や深層崩壊の定義等について質問が出された。また、そのような両国で共通の研究テーマについてワーキンググループを設置するなど共同研究を継続し、その成果を行政にも反映していくことが望ましいとの認識で一致した。また本会議についても継続的に開催していくことが確認され、次回の会議を平成26年にイタリアで開催することで合意した。

以上の合意事項について、大野砂防計画課長とパスト所長による議事録への署名が行われ、閉会となった。



写真-3 会議の様子



写真-4 テクニカルセッション



写真-5 議事録署名



写真-6 会議参加者

1.5 おわりに

近年多発する土砂災害、特に大規模土砂災害や、それらに対するソフト面での対策については両国が直面する共通の行政課題となっており、今回の会議では、両国におけるこれらの課題への先進的な取り組みについて情報交換をすることができました。このような技術交流を行うことは、日本・イタリア両国のみならず世界で発生する土砂災害に対応するための技術力向上の面で非常に有意義なことです。今後も本会議を継続的に開催し、両国の情報共有・共同研究を通じて砂防技術の発展が進むことが望まれます。

最後になりましたが、本会議および現地視察の実施にあたっては、宮城県土木部、群馬県嬭恋村、東北地方整備局、関東地方整備局ならびに砂防関係法人の皆様をはじめ多くの方々にお力添えをいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。